

## V16b すばる主焦点広視野カメラ：Suprime-Cam

岡村定矩<sup>1</sup>、関口真木<sup>2</sup>、宮崎聡<sup>3</sup>、小宮山裕<sup>1</sup>、八木雅文<sup>3</sup>、嶋作一大<sup>1</sup>、仲田史明<sup>1</sup>、川崎渉<sup>1</sup>、土居守<sup>1</sup>、安田直樹<sup>1</sup>、古澤久徳<sup>1</sup>、澤田保宏<sup>1</sup>、浜部勝<sup>4</sup>、井美克己<sup>3</sup>、岡田則夫<sup>3</sup>、鈴木克幸<sup>5</sup>（<sup>1</sup>東大院理、<sup>2</sup>東大宇宙線研、<sup>3</sup>国立天文台、<sup>4</sup>東大理天文センター、<sup>5</sup>東大院工）

Suprime-Cam は、「すばる」主焦点（視野直径 30 分角）のほぼ全面を、15 ミクロンの画素、ピーク量子効率 90%を有する 2000×4000 画素の CCD 素子 10 個を用いて覆い尽くす。8m クラスの望遠鏡で、30 分角という広視野にわたって撮像能力を有するものは「すばる」のみである。Suprime-cam は、帯域幅 30Å 以下の極狭帯域撮像を別にすれば、波長 0.30 ~ 1.1 ミクロンの可視光帯における撮像観測のほとんどすべての要求に答え得る装置であり、太陽系の深探査から宇宙論的観測まで、「すばる」による幅広い天文学展開のもっとも基礎となる装置の一つである。（ただし、初期の主焦点広視野補正光学系は、紫外光を透過しないので U-バンドの観測は出来ない）

主焦点の 30 分角の視野とカセグレン焦点での 6 分角の視野の物理サイズはほぼ等しい。このため、Suprime-Cam は、今年秋に予定されている、「すばる」のカセグレン焦点でのファーストライトにも参加する。その時点で、全ての CCD 素子はマウントされていないが、かなりの視野はカバーできる。望遠鏡の立ち上げに協力しつつ、Suprime-Cam の基本性能を確認するための機能試験観測を行なう。

本講演では、Suprime-Cam の基本性能、装置製作の進捗状況、機能試験観測計画などを報告する。